はしか おたふくかぜと 風疹 (MMR) ワクチン

あなたが知るべきこと

1 なぜワクチン接種を受けるのでしょうか？

はしか、おたふくかぜ、風疹は深刻な病気です。

はしか
- はしかウイルスは、発疹、咳、鼻水、目の炎症や発熱を 起こします。
- 耳の感染、肺炎、痙攣（急な引きつりや凝視）、脳障害や死亡することがあります。

おたふくかぜ
- おたふくかぜウイルスは、発熱、頭痛、分泌腺の腫れを 引き起こします。
- 耳が聞こえなくなったり、髄膜炎（脳や脊髄膜の障害）、激しい痛みを伴う精巣や卵巣の腫れを引き起こし、稀に死亡することがあります。

風疹（ドイツばしか）
- 風疹ウイルスは発疹、中度の発熱、神経痛（ほどんど女性）を引き起こします。
- 妊娠している女性が風疹に感染すると、流産あるいはその子供は深刻な先天性の障害をもって産まれることがあります。

以上の病気に感染した人が周りにいる場合は、貴方あるいは貴方の子供が感染する可能性があります。なぜなら、人から人へと空気感染するからです。

はしか、おたふくかぜと風疹(MMR)のワクチン接種はこれらの病気を予防します。

MMR接種を受けたほとんどの子供は、以上の病気にかかりません。ワクチン接種を止めると、より多くの子供が病気にかかるでしょう。

2 MMRワクチン接種を受けるべき人と時期は？

子供達はMMRワクチン接種を2回受けなければなりません:

✔ 生後12-15ヵ月に初回

✔ 4-6歳に二回目。

以上が理想的な接種を受ける年齢です。最初の接種から少なくとも28日たっていれば、第二回目の接種をどの年齢でも受けることができます。

大人でもMMRワクチン接種を受けるべき人がいます:
一般に、1956年以降に生まれた18歳以上で、ワクチン接種および実際にこれらの疾病に罹ったことのない人は、少なくとも一回はMMRワクチン接種を受けるべきです。

詳細は、主治医あるいは看護婦にお尋ねください。

MMRワクチンは他のワクチンと同時に接種することがあります。

3 MMRワクチン接種を受けるべきではないあるいは延期するべき

- 今までにジェラティン、抗生物質ネオマイシン、あるいは以前に受けたMMRワクチンに対して命に関わるアレルギー 反応があった人は、MMRワクチン接種を受けるべきでは ありません。

- 接種が予定されている日に、中度あるいは重度の病気に罹っている人は、通常回復するまでMMRワクチン接種を受けないでください。

- 妊婦は、出産を済ませてから、MMRワクチン接種を受けてください。MMR ワクチン接種後 4 週間は妊娠しないようにしてください。

- 以下の事項を含む、MMRワクチン接種を受けるべきかどうか迷っている人は、医師に確認してください:
  - HIV/AIDS、あるいは他の免疫組織に影響のある疾病に罹っている人
  - ステロイドなどの免疫組織に影響のある薬物の投与を2週間以上受けている人
  - ガンを患っている人
  - エックス線あるいは薬物によるガン治療を受けている人
  - 血小板値が低いことがあった人（血液障害）

- 最近輸血あるいは他の血液製品を受けた人はMMRワクチン接種を受ける時に医師に尋ねてください。

主治医あるいは看護婦にお尋ねください。

裏へ...

4 MMRワクチン接種の危険は何ですか？

他の薬物と同じように、ワクチン接種は重度のアレルギー反応のような深刻な副反応を生じる可能性があります。深刻な副反応や死亡などのMMRワクチン接種を受ける危険性は、非常に低いものです。

MMRワクチン接種は、前記の三種類の疾病に罹るよりもずっと安全です。

MMRワクチン接種を受けた大部分の人には何の副反応も生じません。

軽度の副反応
- 発熱（6人に1人までの確率）
- 軽度の発疹（20人に約1人の確率）
- 頬や首の分泌腺の腫れ（稀）

これらの副反応が起こる場合は、通常接種後7-12日以内です。そして第二回後には、それ以上に発生する確率が少なくなり ます。

中度の副反応
- 発熱によって起こる痙攣(急な引きつりや凝視)（3.000回投与に約1回の確率）
- ティーンエイジャーあるいは成人した女性に発生する、一時的な関節の痛みやこり（4人に1人までの確率）
- 血小板値が一時的に低くなり止血障害を起こす（30,000回投与に約1回の確率）

重度の副反応（非常に稀）
- 深刻なアレルギー反応（100万回投与に1回未満の確率）
- 子供がMMRワクチン接種を受けた後に生じる、知られている幾つかの重度の副反応。しかし、これはほとんど起こらないので、専門家は実際にワクチン接種によって生じたのか　　どうかを確認していません。これらには以下の事項が含まれます：
  - 耳が聞こえなくなる
  - 長期間にわたる痙攣、無意識状態あるいは低い意識状態
  - 回復不可能な脳障害

5 中度あるいは重度の副反応がある場合には？

何に気を付けるべきでしょうか？

深刻なアレルギー反応、高熱や行動の変化など通常では見られない状態。接種後数分から数時間以内に、呼吸困難、かれ声あるいはゼイゼイと息をする、じんま疹、蒼白、虚弱感、動きやめまいが起こります。高熱や痙攣が起こる場合は、接種後1、2週間に発生します。

何をするべきでしょうか？

- 医師を呼ぶか、大至急医師に連れて行ってください。
- 症状と起こった日時、接種を受けた日付を医師に伝えてください。
- Vaccine Adverse Event Reporting System (VAERS: 予防接種有害事象報告システム)用紙を提出するよう医師、看護婦、または保健所に要請してください。もしくは自分でVAERS 1-800-822-7967に電話するか、http://www.vaers.org をご覧ください。

6 ナショナル・ワクチン接種障害賠償プログラム (The National Vaccine Injury Compensation Program)

ワクチン接種後に貴方や子供に深刻な副作用が出るという稀なケースの場合には、ワクチンによる障害を持つ人の看護のために資金を援助する連邦プログラムが設置されています。

ナショナル・ワクチン接種障害賠償プログラムの詳細については、1-800-338-2382へ電話するかプログラムのウェブ・サイトをご覧ください。http://www.hrsa.gov/osp/vicp

7 どうしたらもっと知ることができるでしょう？

- 主治医あるいは看護婦に尋ねてください。ワクチン接種に関する印刷物または他の情報源について教えてくれます。
- 地域または州の保健局の免疫プログラムに電話してください。　1-888-767-4687
- Centers for Disease Control and Prevention (CDC)（疾病コントロール及び予防センター）に連絡してください:
  - Call 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)
  - ナショナル免疫プログラムのウェブ・サイト http://www.cdc.gov/nip

DCH-0454J
AUTH: P.H.S., Act 42, Sect. 2126.

CDC

U.S. DEPARTMENT OF HEALTH & HUMAN SERVICES
Centers for Disease Control and Prevention
National Immunization Program

Vaccine Information Statement
MMR IMM-375ML - Japanese (1/15/03)　　42 U.S.C. § 300aa-26

Translated by Transcend Translations, Davis, CA

正確な予防接種状況、予防接種についての評価、今後の予防接種の推奨スケジュールを医療提供者に提供するため、情報は Michigan Care Improvement Registry (ミシガン幼児予防接種記録所)に送られます。予防接種情報が同記録所に送られないよう医療提供者に要請できる権利が誰にでもあります。